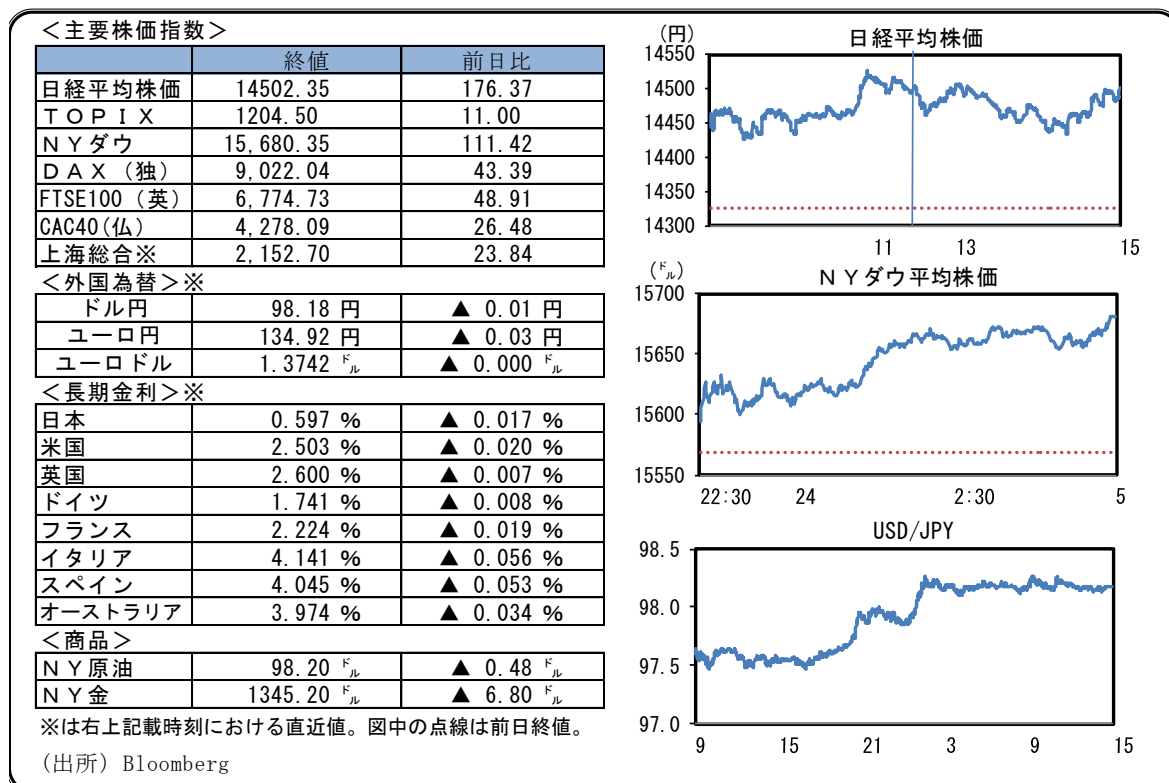


ともに「無風通過」だろう（日銀会合・米FOMC）

2013年10月30日（水）

第一生命経済研究所 経済調査部  
藤代 宏一  
TEL 03-5221-4523

15:12 現在



【海外株式市場・経済指標】 ～11月データの反発力を見極めたい～

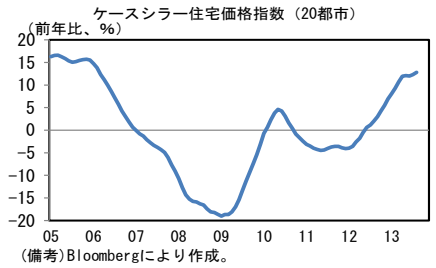
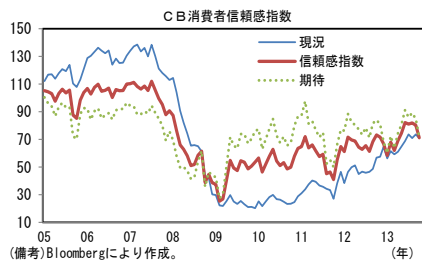
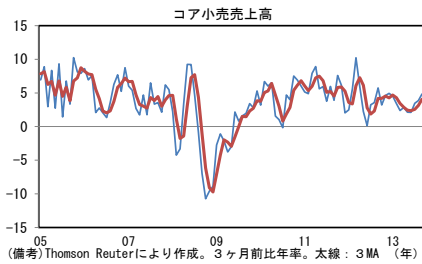
29日の米国株式市場、NYダウ平均株価は続伸。前日比+111.42ドルの15680.35ドルで取引を終了。米経済指標は強弱まちまちだったが、企業決算は概ね好調で買いが膨らんだ。S&P500、NYダウ共に史上最高値を更新。S&P500は直近15営業日中で下落は僅かに2日のみ。

9月小売売上高は前月比▲0.1%。これは振れの大きい自動車・同部品の減少（同▲2.2%）が主因。除く自動車でみると同+0.4%と堅調。基調を反映するコア小売売上高は同+0.5%と前月（+0.2%）から加速。3か月前比年率でも同+4.9%（3MA：+4.1%）と持ち直している。ただ、新型スマホ発売の影響により、やや強めに出ている可能性がある。

10月CB消費者信頼感指数は71.2と前月（80.2）から大幅に悪化（市場予想：75.0）。既発表のミシガン大学消費者信頼感指数と同様に期待指数（84.7→71.5）が大幅に悪化している。クリスマス商戦を控えるなかでタイミングとしては最悪だが、11年のデットシーリング問題時の動向を引き合いに出せば、政府機関閉鎖の影響は一過性のものかもしれない。単月の落ち込みよりは来月以降の反発力に注目すべきだろう。

8月ケースシラー住宅価格指数は前年比+12.82%と前月（同+12.31%）から加速。ただ、FHFA住宅価格指数や中古住宅販売中央価格の落ち込みに鑑みると先行きは上昇が一服する可能性が濃厚だろう。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



## 【外国為替相場・債券市場】 ～ドル全面高～

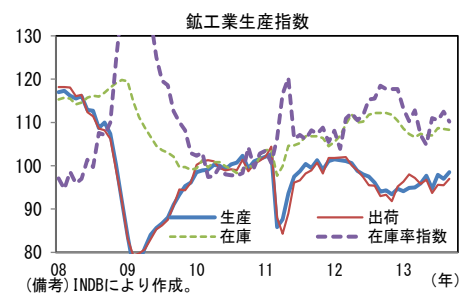
29日の海外時間はUSDがG10通貨に対して全面高。米経済指標は強弱区々で特段の材料もなかったが、欧州時間からUSD買いの流れが続いた。USD/JPYは日本時間17時頃から上昇を開始、米小売売上高で一旦は下落したものの、米現物株がラリーとなるなか一段高となった。EUR/USDはノボトニー・オーストリア中銀総裁の為替中立発言（「ユーロ高に耐える必要がある。ECBはユーロ高に対抗する手段を持たない」）を受けて急上昇する場面はあったが、その後もUSD買い基調は崩れなかった。その他G10通貨ではAUDの弱さが目立った。RBA総裁が「豪ドルはかなり高い確率で現在の水準から著しく下落すると思われる」と発言したことが背景。

米10年金利は▲2.0bpの2.50%。独・英10年金利も追随し、それぞれ1.74%（▲0.8bp）、2.60%（▲0.7bp）。GIIPS10年金利も総じて低下。特に西10年金利は4.05%と5月に付けた年初最低水準に並び、ギリシャ危機が同国に“飛び火”する前の2010年8月以来の水準に到達。この日発表されたスペイン小売売上高が約3年ぶりに前年比プラスに転じたことも材料視されたとみられる（※ただし「前年の裏」要因有り）。

## 【国内株式市場・経済指標】 ～生産：緩やかだが着実に前進～

30日の東京株式市場、日経平均株価は反発。前日比+176.37円の14502.35円で取引を終了。前日の欧米株高に追随してラリー。USD/JPYも98円台を回復しており、買い安心感は強い。

9月鉱工業生産指数は前月比+1.5%と反発（市場予想：+1.8%）。出荷は同+1.6%、在庫は同▲0.2%となった。生産・出荷が伸びる一方で在庫（率）が減少しており、バランスが良い。生産活動の先行きを示す製造工業生産予測指数は10月：+4.7%、11月：▲1.2%と高い伸びが示された。10月の予測修正率が+0.7%とプラスになった点もポジティブだ。既往の円安を背景に、輸出が徐々に回復力を増すと見込まれることから、先行きの国内生産のモメンタムは強まると思われる。



## 【注目点】 ～FOMCは無風通過の公算、日銀MPMも同様～

本日発表予定のFOMCで政策変更は見込まれない。声明文の変更も景気判断の微修正に留まるだろう。Taperingやフォワードガイダンスに関するメッセージも、声明文からでは、ごく僅かしかヒントが得られないと見込まれるため、「無風通過」が想定される。フォワードガイダンスについては、エバンスルールで利上げ条件の一つの目安とされている6.5%が射程圏内に入っているが、今月のFOMCでフォワードガイダンスを修正（インフレフロア条項追加）することは無いだろう。利上げ観測が沈静化しているため、動意に乏しいためだ。FEDにとっては、残り少ない緩和オプションをとっておきたいのが本音だろう。

明日の日銀MPMも同様だ。現段階でCPIは日銀の想定通りに上昇している。「戦力の逐次投入」をする理由が見当たらない。

## 【予想レンジ（5営業日以内）】

NYダウ平均株価 15400～15800<sup>ドル</sup> 日経平均株価 14200～14700円 ドル円 97.50～99.00円

